



2016 年度危機管理士 1 級セッション開催レポート

要約

2016 年度の危機管理士 1 級セッションが、10 月 29 日の日本自治体危機管理学会研究大会分科会Ⅲで開催されました。今回は危機管理士 1 級を取得され、実際に自治体で危機管理業務に従事されている 3 名の方にご登壇頂き、「危機管理」というテーマを軸に自由にご発表頂きました。

村上 智哉氏 (大船渡市商工港湾部商工課主任)

「時系列で振り返る東日本大震災の被害と対応」というテーマでご発表頂きました。東日本大震災発生直後、発災から2週間後、1ヶ月後と、時間ごとに変わる大船渡市市内の様子と、市民生活が再整備されていく過程を克明にご報告頂きました。



塚原 信孝氏 (いわき市都市建設部 都市復興推進課主任専門技術員)

東日本大震災後、いわき市での災害公営住宅の建設に計画段階より携わったご経験を発表頂きました。即断即決を求められる被災後の状況下で、柱となるはずの市の方針が二転三転したエピソードなど、備えや想定のない計画をその場その場で決めていくことの難しさをご指摘されました。事前復興として平時より復興事業の方針・計画を決めておくこと等、自治体全体に必要な備えについてご報告頂きました。



藤倉 忠光氏 (一関市役所千厩支所 産業経済課長)

自治体における防災対応は、混乱の中で終始してしまうことも少なくありません。そのような問題の解消に向けて導入が進められている「タイムライン」は、いつ・誰が・何をするのかをあらかじめ時系列で整理した防災行動計画です。発表の前半部では一関市が過去に受けた風水害の被害について、後半では「タイムライン」の導入で一関市における防災対応がどのように変化したのか、その効果につきましてお話頂きました。

